

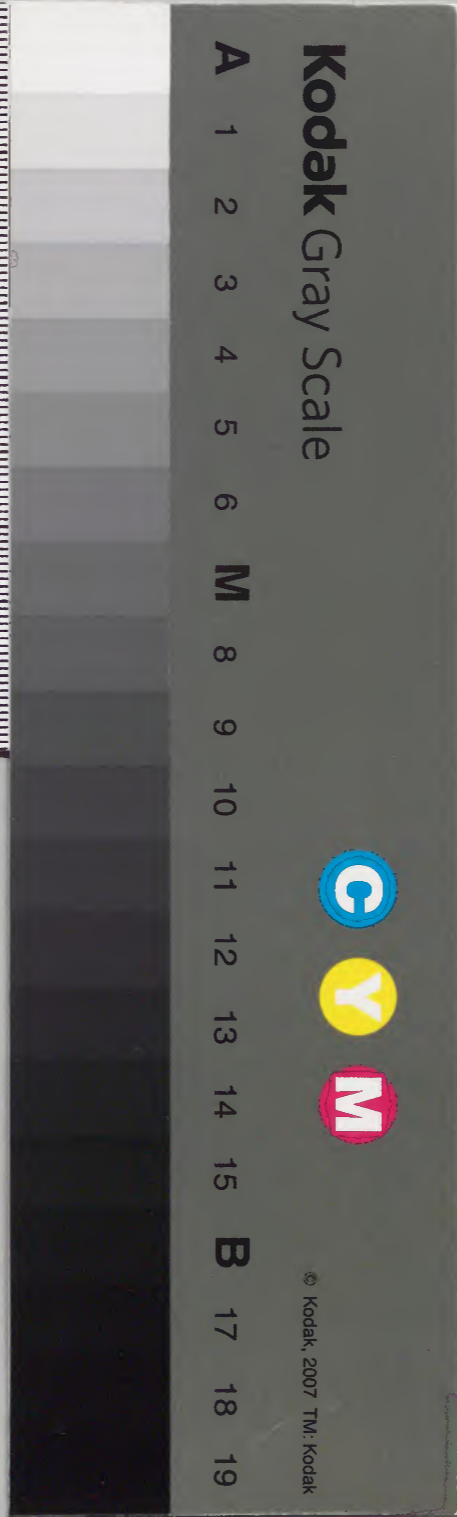
明訓一班抄

庫文閣 91 内			
元	八	和	第
函	〇		部
七	〇	書	夜
架	九	類	三
四	〇		
冊	〇		
	九		

庫文官政太			
	八	和	第
	〇		部
	〇	書	夜
	〇	類	三
四	〇		
冊	〇		
	九		
	九		

内閣文庫	
番號	和 8009
冊數	4 (1)
函號	190 91

190-91



夜

Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and the texture of the paper.



100-001

夜

夜

亦曰南
不國
圖

高岐
印

アシヒキノ大和タマシヒアラハ者ハ朝トナク

タトナク津ノ國ノ難波オモハス世ノタメ國ノ

為ヨシアシヲ沙汰スル道ニ心ヲモ用ヒ身ヲモ

ツトムヘシサムクモココノフミハシメハ吾

婦ノ

左ノオホヒマウチ君ニサケントテ書ツレト

サノカレタル身ニハ今更ニ役ナシトオモヒ

サレハタ祖宗ノ尊キ御教訓ノ筋ヲ述ント

時ニアワサラフニハナカミニカシコキワサ

トフツニオモヒトマリヌサレハ是ヲ丙丁童

沙汰スル
道ニ心ヲモ用ヒ
身ヲモ

馬尾

務省

子ニアタヘムモ本意ナケレハ聊コトハノテニ
ヲハヲカエテ子孫ニ傳エシメスニナム

源朝臣齊

照



目錄

仁心ヲ本トスヘキ事

奢侈ヲ禁スヘキ事

諫言ヲ用ユヘキ事

刑ハ刑ナキニ期スヘキ事

治ニ乱ヲ忘ルヘカラサル事

佛法ヲ信スヘカラサル事

夷狄ヲ近スリヘカラサル事

Blank page with vertical lines for writing.

明訓一班抄一

仁心ヲ本トスヘキ夏

東照宮雅樂頭大炊頭伯耆守三人ヲ石寄ラレ汝

等三人江

竹千代ヲ頼三可申ト

秀忠申サレタルカイマタ申渡サレサルヤ

秀忠同前ニ我モ頼ムソトノ

上意ナリケレハ右三人衆謹テイマタ何タル

仰渡サレモ無御座ト申上ラル、時

上意ニ昨日ノ事ナレハ定テ日柄ヲエラヒ申サ

ル、ニテ有ヘキソ

秀忠ノ内意ハ雅樂頭ヲ後見ト備ヘ可申ト被申候テ仁ヲ以テ育ヨ大炊頭ハ智ヲ以テ諫ヨ伯耆ハ勇ヲモツテ守リ立ヨ汝等三人一口和同シテ諫言セヨ汝等

竹千代ヲ我風儀トヒトシク守立ヘキト思フヘカラス兼テイフコトク慈悲ヲヨロツノ根元トシテ風儀ハ好フスキカアルソ此意ヲ夕トヘニイフニ我ハ寅ノ年ニテ金性也
秀忠ハ卯ノ歳ニテ土性也
竹千代ハ辰ノ

歳ニテ火性也人ノ生レ付モ大方此心ソ我性ナリ速秀忠ヲ金性ニセント思フテモナラサルソ此心ニテ人ノ風儀ハ儀ニ直リカタキモノソ其生レ付ニ随テ善政ヲ行ハセヨ第一ノ肝要ハ武道ニ急ラサル莫ソサレハ人ノ身命ハ生死ヲ計ルニ朕ヲトリテ午首一才ノ中ニテ知ル如ク武家ニテ武道急ルハ身命ノ死朕ト知レト被仰ケル云々
同上意ニ免角常々側ニテ石使ヒ候傳ノモノハ第一孝行ト天命ト下ヘ慈悲ヲカケ武家ノ事幼

約務省

女ヨリ申聞候得ハ自然ト身持ヨクナルモノニ
 候君臣ト申事ハ定リタル事ニハ候ヘトモ君父
 ルモノハ臣君ト心得申事專一ノヨシ云々本ノマ 鬼
 角上ヨリハ何事ニヨラズ慈悲ヲカケ眞顔有偏無
 賞罰ヲ正シク臣ヲハ君ト本ト心得候ヘハハ 豆敷
 候臣有テノ大名ナレハ召使フモノナクテ大谷
 ノ詮ハナク候云々
 同上意ニ幼少ニ節万事大ヤウニ輕キモノ、物
 イヒ真似ヌヤウニ心得候事夫モアマリ大ヤウ
 過テハ却テ下ノ情ニ委シカラス慈悲ノ心薄ク

ナリ申候云々

同上意ニ子供ヲ育様ハ武士ヲ付タルカ能ソ上
 杉憲政カ子龍君カ莫ヲ定テ聞及ヒタラソソ斯
 ノコトクノ覺悟以ノ外アシキソ子ヲ育ルニハ
 忘レテモ柔弱ニ剛又血氣ノ勇ヲ好マサルヤウ
 ニスヘシ入ノ基ヒハ慈悲也慈悲有モノハ當分
 アシク有テモ心直ルモノソ無慈悲ナルモノハ
 人ニ成事ナシ秀次ナトノ様ニ無慈悲ニシテハ
 人ニ成カタキソ云々
 同上意ニ仇慈悲ハ草木ノ根ソ人ノ和ハ花實ソ

根ヲヨク養へハ花モ實モ年々出未ル爰ヲ考工
テ尺根ヲ強クセヨ根ヲ強クスルハ古法ヲ守リ
奢カナク慈悲ヲ万ノ根元ニ定ルニアリ
同上意ニ汝等慈悲深ク常々善ヲ思フヘシ但シ
爰ニ心得有何ホト自分ニ善成トオモフ共天下
ノ諸人悪成トイフハ
將軍目カ子ハツレタルニテアルソ云々
同上意ニ人ニ大根有先慈悲ヲ万ノ根元ニ定メ
若無慈悲ナル事偽リカマシキ事少シニテモ
アラハ隨分諫言セヨ云々

同上意ニ我領分ハ勿論其外天下一統セシ以後
公断トナリシ民百姓トテモ我子孫万代ト願フ
ヨシ聞ヘアリ是ハ三河以来ノ舊制ニテ年貢取
箇ノ法諸家ヨリハ少分ニ取候ト申付候故也
此法ヲ子孫迄第一ニ守ルヘキ事ナレ氏太平打
續キ上奢リ下諭ヒ國司之キ風ニ至リ勘定奉行
杯イフモノ代官ヲセタケ取箇少キ時ハ太平ノ
顔色ヲ以不勤ナト、イワン代官テモ當時ノ成
合能様ニ諸ノ事ニハ構ハス法外ニ年貢取箇ヲ
マシ百姓ヲ困窮サセ上ヲウツマセ候ヤウ致ス

内務省
へシ左様ノ不了簡成勘定奉行ヲ御為ナト、言
立年寄トモハレメ側ヲ勤ル者共立身ヲ取持加
増ヲモ遣ス様ニナリタラハ國家ノ衰微ト知ル
へシ我百年ノ後ニモ天下兵革起ラサル事ハ有
へカラス只百姓ノ心ハナレ上ノ冥加氣運モ薄
クナラニ事歎カハレキ事也カヤウノ事中主ヨ
リ以下ハ執政ノ者ノ志次芽也水ヨク舟ヲ浮へ
水ヨク船ヲクツカへス只コノ事ヲ能々心得ラ
レヨト

秀忠公へ毎度御教訓ナリ

齊昭謹テ按ルニ慈悲ハ佛語ヨリ出タ事ニ
テ経語ニテイハ、惻隱マタ惠ノ字ナトニ
當ルへシ惠ハ仁ノ一端ナレ氏平均ニ成様
アルへシ譬ハ自分スル処ヲノミ惠ムハ惡
シ
將軍家ハ天下ノ人ヲ惠ミ國主領主ハ領民
ヲ一体ニ惠ムヤウニ有ヘキ事也一軀ニ惠
ム時ハ即仁也人ノヨロコフ所ニヨリテ惠
ム時ハ鼻ノ先ノ事ノミニテ一体ニアラス
惠ニテ却テ害トモナル事也又惠ヲ受ル人

内務省

モ自分ハ聊ノ惠ミニテモ天下ニ及ヒヌル
 ヲ以テ御仁政ト仰キ奉ルヘキ事ナリ抑
 東照宮ニテモ慈悲トクト宣フハ通俗ニ悟
 シ易キタメニ佛語ヲ用ヒ給フトイヘ氏其
 御言葉ヲ味フルニ慈悲ハ則仁徳也御言行
 共ニ仁ヲ本トシ給フ故天下ノ人民帰服シ
 テ従ヘリ
 台徳公 大猷公ミナ質素儉約ヲ施シ給
 ヒ文武ヲ御ハゲマシ御言行共ニ仁ヲ以テ
 本ト遊ハサレシ故今ノ

御世迄モ明君トバ称シ奉リ
 將軍家 右大將公ハ勿論凡民ノ父母タ
 ルモノハ

三代將軍 有徳公ノ御言行ヲ慕ヒ奉リ
 仁徳ヲ本トシテ文武ヲハケマシ質素ヲ守
 リ明將明君ト仰ラル、ヤウニアリタキナ
 リ
 三代將軍 有徳公ノ如ク仁徳ヲ本トシ
 賢能ノ士ヲ擧質素儉約文武ヲ励シ給フ時
 ハ永世迄モ明君ト称シ奉ル莫寶永

御代ノコトシ姦夫奸僧婦女子ノ言語ヲ信
シ給ヘハ永世寶永ノ政ヲソシリ奉ル忍レ
サルヘケンヤ戒ノサルヘケンヤ道ニワ仁
ハ^{トカ}不仁トノミ仁ヲ行ハサレハ必ス不仁ニ
陥ルヘシ本文
上意等熟讀説味セスハ有ヘカラス

奢侈ヲ禁スヘキ事

東照宮上意ニ奢ル心ナリ物事儉約ヲ用ヒ道ニ
其程ヲ能知ルヲ政道正シキトイフナレハ下々

ハ過分ノ知行其外給ルモノ其程ニ施シ與レハ
奢ルモノニ引當テ吝嗇ノ取沙汰イタシ候所ヘ
ヨリ賢君賢臣ノ過分ニ給ハリ物萬事花美ノ行
ヒハナク身ヲ慎ミ儉約ヲ用ヒシ事ニ候
同上意ニ人ニモ身ニモ去ヘキモノハ奢ソユ々
同上意ニ武道ノ不紊内ナル家ハ諸士ノ風俗柔
弱非儀ニナリテ武勇ナケレハ一戦ニ打負ル時
ハ罪ナキ嬰兒迄ニ一時ニ亡ヒヌルハ古今例シ
多シ武家ニ生レテ武道ニ愚ナルハ鼠ト又猫
ノコトシ公家ト武家トノカハリハ譬ヘハ金十

ラハ公家ハ金銀ノ如ク武家ハ鐵ニ同シ然ルニ
人民金銀ヲ好ミテ鐵ノ大寶ナル事ヲ知ラス鐵
ハ寶器ノ本也五穀ヲ作り竹木ヲ切ニモ朝夕ノ
食ヲ調ヘ忖天下國家ノ乱ヲハラヒ太平ヲイタ
ス事鐵ノ用多シ誠ニ大寶ノ長タルモノ也爰ヲ
見ツケス尺金銀ノニ好ミヌレハ災ヒノ媒トナ
ルソ武家^武ニオコタリ公家風ニナレハ刀脇差代
替金鐵ヲ巾着ニ入丸腰ニテ往来シ命ヲ失フニ
同シ尺各家職ヲ能勤ルモノヲ擧テ奢リヲ絶テ
慈悲ヲヨロツノ本トシテ天下ヲ治メ給ヘト申

ヘシ

同上意ニ関白秀次木村大坂ノ城ヨリ水指ノ蓋
ヲ取参リ候ヨシ申ニ付テ是ヲ賞翫シテ秀吉ノ
大恩ヲ忘レ忽亡ラレタリ必武道不案内ナルモ
ノハ無分別シテ先ヲシラス物ニ倣ニ行當リ臆
病也臆病成者ハカサツニテ奢強シ奢強キモノ
ハ依怙最負アル如斯モノハ一門家臣ハシメ大
身ナル者程頼ミニナラス云々
同上意ニ忠臣ハ大小上下近習外様古参新参ニ
寄タルモノソ只人ノ心ニ有^ソ然ル時ハ汝等ハ

諸人ニ心易クアテカヒ其モノ、埋レサル様ニ
シテ忠臣ヲ尽サセヨ汝等高上ニシテ諸人地ニ
掘入様ニナル時ハ夕トヘハ上位ハ天ニ登リ下
位ハ地ニ入ニヒトシ此時君臣ノ間遠サカリ縁
キレテ家滅亡スルリ惣シテ主人家老ノ前ニテ
ハ次々ハ無礼ニ見ユル程ノモノカ多分蔭ホト
上ヲ大事ニ思フモノソ家老出頭ナリトテ跡先
ノ考ヘナシニ諸人ニ慮外ラスル時ハ諸人非ナ
キ主ヲ恨ムルモノソ此考ヘナクハイマニスル
ヲ満足シ主ヲカサニキテ奢ル者ハウツケノ頂

上也モシ是ヲ邪ラ會ムモノアラハ彼彌四郎恭
ノ道高カ類也又人ニ慮外ヲ仕カケラレテ何共
思ハヌ者ハ何ノ役ニモ立ヌモノヲ能々心得ヘ
シ同シ侍カ時運ニヨリテコソ主ト成家老出頭
ト成諸侍ト成ニ當分オノレ時々逢タリトテモ
諸人ニ慮外ヲシ侈リ強キ者ハウツケモノナル
ニヨリテ天下ノ事ハイフニ及ハス國主郡主家
中共奢ル者ハ災ヒニナル故嫌フ也此故ニ下野
カ家頼ニ小笠原監物ハ一麻下野カ用ニモ立ヘ
キ者ナレト侈リ有シ故以来籙本諸大名家中迄

頼恐采之誤

モ侈り有モノハ如此スルソト近クハ見ルモノ
 遠クハ聞セ奢リヲ絶ヘキ為斯ノ如キソ秀吉モ
 本村常陸ヲ早ク成敗シ給ハ、秀次ノ惡モ是程
 迄ニハ有マシキソ惣シテ万事ヲ細カニ聞ク心
 底ニ納メ能ク吟味シテソノ成敗ヲナスヘシ物
 事短慮ニスル事ナカレ天下國々鳴々迄カ子テ
 能聞テ其善惡ヲ紀スヘシ重子々々言聞スル如
 ク跡先ノ考ヘナク侈り強キモノアラハ是ヲ取
 ヒシクヘシコレ天下ヲ治ル第一ノ法也
 同上意ニ武道不察内ノ者ハ諸侍ノ嗜ト奢トヲ

取違ヘルモノソ嗜トイフハ近藤ナトカ如ク似
 合サル莫イタシ朝夕ノイトナミカスカニ身ノ
 苦シニ大形ナラスシテ身体ヨリ過分ニ人馬ヲ
 持武具馬具キラヒヤカニ常ニ家職ヲ忘レス惹
 悲ヲ能正シ誰カ前ニテモ理ハ理非ハ非トイフ
 モノ也是ヲ奢リトイフハ不察内也是ヲ侍ノ
 不意嗜トイフソ奢トイフハ家職ヲ失ヒ武家ハ
 公家ヲ學ヒ出家町人武家ヲ學ヒ杖家職ヲ非ニ
 見ルモノヲ侈者トイフソ
 天子ノ御務ニモ正月朔日朝拜ヨリ月次ノ御祭

事有是
 天子ノ御家職也關白ハ天下ヲ預リ政道正シク
 人民憂ナク治ルヲ職トス是文道也
 將軍ハ天下ノ惡逆ヲ討テ有道ヲ助クルヲ職ト
 スコレ武道也是上代ノ法ソ然ルニ中頃ヨリ君
 臣奢強クシテ政ヲ取失ヒ人民安カラス云々
 同上意ニ天下ノ大寶トイフハ日本ニ能大將
 アル時ハタトヒ異國ヨリ日本ヲ攻候共武勇
 ラフルヒタヤスク退治スルハ天下ノ大寶也既
 ニ日本ヨリ異國ヲ攻ケレハ又異國ヨリ日

本ヲ攻マシキトオモフハ愚也又家ノ大寶ハ諸
 侍武道ヲ志レス詐義正シク忠信深クシテ追従
 輕薄ノ風俗ナキハ國家ノ榮工行ヘキ前表ニテ
 家ノ大寶也又汝カ心得ニハ埋レ居タル身ヲカ
 ヤウ取立シ上ハ其報恩ニ尺身分ノ侈リヲタツ
 ヘキト思ヘ返スルニ邪ナキ様ニ慎メ一言ヲモ
 能ク考ヘテイハ汝カ一言ノ善惡ハ將軍ノ善
 惡ソ我見捨サル者ニ奢ルモノアリ我イロヒ
 異見下知スレトモ聞ス此上ハ多分カナシ自分
 滅スヘキトオモフソ不便成事也汝カナラス奢

ン少シニテモアラハ大不忠ト心得身ヲ引下リ
諸人ニ親シクシテ忠信ヲ尽セ云々 扱又大賀
如キ後シモノヲハ早ク亡スヘシ云々
東照宮ニ河ニオサテ毎年夏中御麥飯タリ御近
侍ノ人ヒソカニ白米ノ御飯ヲ御椀ノ底ニ入上
ニ麥飯少シ計リヲオホヒ出シケレハ御覽有テ
汝等我心ヲ悟ラス我ヲ以テ惜ムトオモヘルカ
今戦國ノ時ニテ兵杖動カヌ年ナシ士卒煩擾ニ
シテ寤食ヲ安ンセス我ヒトリ何ソ飽足ニ忍ン
ヤ且我一身ノ奉養ヲ儉約ニシテ軍用ニ給セン

○ス百姓ヲ勞シテ
自分ニタカナル事
ヲセスト

ト仰ラレケレハ聞モバ皆悦服セリ薩摩守忠吉
十五歳初陣ノ時純子ノ如ク浮紋有ル唐織ハ脊
ニ一尺四寸程ニ金糸ニテ圓ヲ縫内ニオナシ糸
ニテ孔雀ヲ縫タリ
東照宮其奢リヲ戒ノ給フニヨリ家老小笠原和
泉守自分ノ陣羽織高宮布ニテ作ルヲ忠告ハ着
セ。孔雀ノ陣羽織和泉守ニ給ハリ今ニ小笠原三
郎左衛門綱シケチカ家ニ有云々
東照宮駿府ニ御在城ノ節夕御膳ノ御給仕ニ御
小性罷出候處其者着候袴ヲ御覽遊ハサレ夫ハ

内務省

何ト申モノソト御尋遊ハサレ候得ハ彼モノ茶
字ト申物ノヨシ申上候得ハオノレニクキ奴カ
ナ 天下久シク乱ニ及ヒ漸此原少シ静カナ
リ万民モ安キヤウニ見エシ所我等モ知ラサル
程ノ衣類ヲ着シタル事天下ノ侈リヲ始メ乱ノ
端ヲ發ス不屈モノ也御前^ヲ退キ候ヘト以ノ外御
機嫌損シタ御膳モ石上ラレス候エハ御近臣共
ハ種々ニ御機嫌ヲトリ漸夜ニ入御膳ヲス、メ
申事候トリ御遺戒ト大小名ハ不及申平日奢リ
停止分限相應ハ勿論直參倍臣ニ至リ高知ノ面

々迄モ知行ノ内一分ハ軍役一分ハ領分救米除
置常々儉約ヲ忘レス所帯ツ、クヘキ事國郡在
々常々分限ヲ見定メ置ヘシ凶年飢キ^シノ節救
民ノ施行見道スヘカラサル事直參タリ凡百石
以下ノ士着用絹衣不可用公私兩用木綿ニテ可
相濟事

東照宮御鷹野ニ成ラセラレ候列御泊掛ト申ハ
格別ニテ御日歸リ御鷹野ノ節御辨當ノ
仰出サレハ稀々ノ事ニテ大方ハ御焼飯ヲ御持
被遊野ニテモ山ニテモ二度モ三度モ石上ラレ

其供ニテ御歸り遊ハサレ候或時羈鷹ニ
成ラセラレ候處昼ヨリ前殊ノ外ナル御物敷故
御悅ヒ遊ハサレ御鷹犬共ヲ曳參ルヘキ旨
仰付ラレ御自身焼飯ヲ御出シ遊ハサレ残ラス
大トモヘ御喰ハセ遊ハサレ其後モ御鷹御意ヒ
遊ハサレ何ソ石上ラルヘシトノ仰ニ候ハ此御
辨當ノ焼飯ハ大トモニ御食セ遊ハサレ残り不
申候ト御少性衆其段申上ラレ候得ハ百姓トモ
ノ家ニ芋ノ無事ハ有マシキトノ仰ニ候トモ
時分柄ニテ里イモ無御座候ヨシ申上ラレ候ヘ

ハ山ノ芋ニテモ吳ヨド仰ラレ候ニ付諸々芋ヲ
掘出シ水煮ニシテ差上候ハ是ハトノ
御意ニテ塩ヲ御附遊ハサレ石上ラレ候テ
御歸り遊ハサレ候トナリ
東照宮大坂夏ノ御陣ニ御臺處用意
仰付ラレ候所膳米五斗于綱寺杖味噌鯉節ウシ
ニテ事足シ味噌モ多クハ持スナト
上意是有ヲカヤウニナケレハ此備ハ曾テ以テ
計リ難キ事成ヘシ

東照宮御代ノ儀ハ申ニ及ハス

急徳公御代ノ頃迄ハ世間共ニ万事午輕ノ我ト
モニコレアリ

秀忠公御代松平新太郎殿江戸へ始メテ

御目見申上ラレ候節御勝手ニテ御料理ヲ下サ

レ候時一座ノ衆十三人アリ上座ハ織田常真其次

ノ座ハ大炊頭差図ニ而新太郎着座致サレ候ト

ナリ其節ノ御料理蒸汁オロシ大根ノナマスア

ラメノ奠物于魚ノ焼物ニテ是有候ト也云々

東照宮駿府ニテ御不例之節板倉内膳正ノ御身

後ノ我仰置レ候ハ我等廟所ヲ

將軍ヨリ申付ラレ候ニオキテハ始祖ノ廟ナレ

ハトノ儀ヲ以テ作事ニ結構ニ申付ヘク候得トモ

夫ハ無用ノ事ニテ我等子孫ニイタリ代々共ニ

始祖ノ廟ニ増ラヌヤウニト勅亦有為ニモ有之

間其心得ヲ以テ輕キ 宮殿ニ致シ置レ候様

トノ 御意ニテ御他界ノ後江戸ニテ内膳

正其儀 將軍様へ申上ラレ候處ニ 御衣ノ

仰ニ候ハ氏餘リ輕キ宮殿ト有ハ如何ナレハ大

躰結構成御宮居ト相見ヘ候コトク御普請懸リ

ノモノへ申談シ候様ニト 仰出サレ最前ノ

御宮出来其後寛永三年

御父子様御上洛ノ御留守ニ御臺様御煩ヒ被

為付候段京都へ相聞へ候ニ付駿河大納言様御

者病ノ為御暇ニテ御下向ノ慶ニ九月十五日

薨去遊ハサレ候ニ付増上寺ニ於テ御法事等ノ

儀モ駿河殿御差番ナサレ候内

御父子様ニモ遷御遊ハサレ候御廟所御美

屋等御造管ノ儀共ニ駿河殿ノ御懸リト罷成候

ニ付思石俣ノ結構ニ御普請出来候ト也

駿河殿ハ御臺様ノ

御愛子故歎

同九年正月廿四日

台徳院様御化畧ノ節御靈屋御造建之儀

崇源院様御靈屋ヨリ見増候様仕立可申旨

上意ニテ只今ノ如クナル御佛殿出来候ト也コ

ノ御佛殿ト見合セ候ハ日光山ニ御建被遊候

東照宮御社ハ殊ノ外午淺ニ相見候ニ付惣奉

行ノ儀ハ秋元但馬守へ仰付ラレ候則御宮御

修覆ニ付テハ御入用御厭ヒ無之候間隨分ト手

ヲ又

台徳院様御靈屋ニ見増候様ニト被仰出候

ニ付右御修覆ノ御入用七拾万兩餘ノヨシ右ノ

次第ニユレアリ候得ハ

御代々ノ御魂舎ノ莊嚴ハ其始ノ駿河大納言殿

ノ物數寄ヨリ起リタルヨシ也

伊勢大神ハ古作美藤ナラ子氏日本國中神徳ヲ仰

キ奉ルニテ思フヘシ駿河殿ノ誤リ也

元和二年三月十七日京都ヨリ臨時ノ

勅使トシテ廣橋大納言兼勝卿三條大納言實

保卿参向ノ子細ハ前將軍大政大臣ノ植官ニ

可被任トノ宣旨ヲ相述

大御所御對座有シカ御辞退ノ御心入ト相見

一拜伏ノ御式臺嚴重ニシテ御請被聞最當

植官極誤

日ハ御機嫌相勝給ハサル故カト各察シケル参

府ノ大小名惣出仕アリ極官拜賀ノ御祝儀如何

ト本身上野介ノ相伺フトイヘ尺候伯ヘノ御對

顔モナシ勅使退席後御寢所ヘ入ラセラ

レ御沙汰不被仰出只御饗應疎略ナラサ

ルヤウニト御下知有ハカリ故上野介罪出誠ニ

御當家ノ御名譽是ニ過スト悦ヒ奉リケル

公御恩ヲ継セ給ヒ勿躰ナシ此度

勅使ヲ蒙リシカ冥加ノ程恐憚アリ抑武家大政

大臣ノ拜賀ハ東山麻花院義満計リ大臣トシテ

内務省

并任有之事ハ平清盛前證ヲ出シテノ事ト聞及
フ是義満ノ疎略也清盛相國タルハ
後白河院ノ御落胤ニ紛レナキ故也官武ノ差有
之文官ハ相國ヲ限リトシ武官ハ近衛左右ノ大
將ト見途トセリ大閤秀吉愚昧ニシテ我僣ニ募
リ閔白職ニ補セラレシ事前代未聞也武家ニ三
公九卿ノ并任有事 皇統ノ御威光是ヨリ衰
微スルニアラスヤ 家康江府ノ將任サヘ悞
有レ凡
叡慮點止カタク其上今更大相國ノ

宣旨病中トイヒ御受スヘキ様ナシ草創ノ前年
ヨリ奢リヲ自制シ質素ヲ旨トスル也勿体ナシ
トトノ 上意ヲ伺ヒテ上野介方ヨリ思召
ヲヒソカニ申傳エシカハ諸大名感ニ奉リテ并
賀ノ献上モ相止テオモヒ々々ニ退出シケル
希代ノ御謙退コレニナ御子孫御長久且又候伯
ノ輩ニ驕奢ヲ御戒ノナサルヘキ思召トハ相知
レタリ
有徳公御代御儉約ニ付諸大夫ノ御役人平生ハ
白小袖着用ニ及ハス縞小袖ニ上下着用ノ儀御

用捨被 仰出依之白小袖ヲ着用スヘキ格ノ
人ニト色替リノ襟袖口ナトヲ着シ上着縞小袖
ニテ上下紋付ニ及ハス戾子裏付肩衣次上下ニ
シテ平日着セシカハ不勝手ノ人ニハ大ニ助ニ
ナリシト也其後三ヶ年ノ間歳敷儉約被
仰出候故諸士儉約ヲ用ヒ木綿ノ羽織着セシ云
々

常憲公

佛法ヲ信シ給ヒ
護持院ノ僧ヲ愛シ給フ

文昭公

學者新井築後守ヲ
信用シ給フ

御兩代花美ヲ好ミ給フ

處

有徳公御代其害ヲシロシメサレ歎カセ給ヒ只
今ニモ非常ノ變^アラハ何ヲ以テ万民ヲ救ヒ給
フヘキ色々御工風遊ハサレ万事奢侈ヲ止サセ
給ヒ御儉約ヲ專一ニ遊ハサレシ故

御先代ノ風儀ト忽ニ違ヒシ故万民行儀正シキ
御風儀ヲ究屈トオモフヨリシテ御儉約ノ御政
事ヲ悪サマニ取沙汰シ
公ヲソシル人多カリキ其事ヲ聞シ石テ
上意ニ我世ノ中ノ事ヲ思ヘハコソ千辛万苦ス
ル所ニ却テ民ノソシリヲ得ルコソ苦シケレト

内務省

テ 御詠遊ハサレシ

世ノ中ヲ安カラセシハ身ヲ残シ
イヤシカラントセンハ苦シキ

有徳公兼テ末来ノ事ヲ 仰出サレケルハ九

天子ハ七廟諸侯ハ五廟大夫ハ三廟ト礼記ニ是

アリ巳ニ上野芝ノ廟所

東照宮 台徳公 大猷公

嚴有公 常憲公 文昭公

有章公 七廟有之

天子ノ如シ是武家ノ法ニ過テ聖人ノ心ニ不叶

サレハトテ有来レルヲコホテ仕舞シ様モナシ

只々當時 日本ノ礼花義ニ成テ礼ノ誠ニ不

叶也今ニモ死スルナラハ東叡山ノ

常憲御相殿ニ仕ヘシト享保 御代始メニ

上意遊ハサレシ也

齊昭謹テ按スルニ和漢古今共ニ明朝賢者

ト聞ユル人々ニ儉約ヲ用ヒサルハナシ如

何トナレハ其國ニ生レテハ其國ヲ守リ外

夷ニ奪レヌ様ニスル事君ヘ忠祖宗ヘ孝也

然レハ質素儉約シテサエ武備ヲ午厚クセ

ンハカタシマシテヤ質素ノ政ヲ行ハスシ

テ武備ヲ午厚クセン事ハ成カタキ故也去

内務省

十カラ君柔弱ナル時ハ、女姁夫姁僧女子町人
ナト本ヨリ武備ヲセンヨリハ、今日花叢ヲ
シテ身ヲ樂シミ我録ハ何故ニ給ハルトイ
フ事サヘ忘ル、モノ多キナリ婦人僧侶ハ
勿論戦争ノ憂カ、ワラサレハ終身栄花
ニサヘ暮ス時ハ、濟トオモヒ扱マタ万一事
有時ハ僧侶ハ戦争ノ事ハ我持前ニアラス
我等悉歎退散ノ即祈禱ノ職也トテ無益ノ
祈禱ニ物ヲ費シ危キニハ近ヨラス勝利ア
ル時ハ祈禱ノ印有様ニイヒナシ又勝利ナ

キ時ハ武士ノ急ルニイヒナシ都テ自分道
ル、事ノミ也カ、ルモノ、イフ事ヲ信ス
ル時ハ國家危カルヘシ本ヨリ僧侶ハ天下
ノ大體ヲ知ラス我朝ニ生レ出テ異端ヲ行
ヒ人ニモス、メ自分當座ノ勝手ノミオモ
ヒテ人ヲ欺ク故闇君俗夫ハ是ヲ信シテ儉
約セサルカ下々ノ為ノヤウイツレモ、
ミミ思ヒ誤リテ捨別ニフマヘナキモノハ
闇ニ引入ラル、モノ也恐ルヘキ事也物事
都テ取締ランハ心ナキ人々ニハアシクイ

ワレ自分ニテモ骨ノ折レルモノ故明君ナ
ラテハ質素儉約シテ文武ノ世話スル事ハ
了タハサル也去故ニ末世ニテモ其君聞ユ
ル事也取締ノ事有志ノ者ハ勿論ヨキトイ
フヘシ百姓町人ニテモ永世ヲ見通シタル
大キナルモノハヤハリ悦フヘシ唯心ナキ
士婦人僧侶ニ町人ニテモマシキ商ヒスル
者共カ嫌フ事ナリ是等ノ為ニ取締ヲ止テ
當座譽ヲ求メ永世主君ノ名ヲ穢ス事ナカ
レ常々儉約ヲ守リテタニ飢饉ノ午當又ハ

非常ノ午當ハ難キ事ナルニマシテヤ常々
花麗柔弱ニシテ非常ノ事アラバ如何ナス
ヘキニヤ

三代將軍 有徳公ノ御儉約ニテサヘ常
々質素儉約武備ヲ御勵シ遊ハサレタルヲ
イハンヤ今我々ノ愚持タラシモノ儉約ヲ
セス武備ヲ捨テ非道ノ節ニ臨ミ御用ヲ欠
マシク策ハ有ヘカラス憚リ多クモ

三代將軍 有徳公ハ不及申其地三親藩
ニテモ尾カ切ノ源敬紀嘉ノ源南祖宗ノ威儀

地恐他誤

源南祖宗ノ威儀

ヲ始メ諸大名イツレモ名將ノ聞エタルモ
ノハミナ常々儉約ニシテ武備ヲ勵マシ家
中ニ空シク録ヲハムモノ無様ニセシ也遊
女出家ノ遊民ノ外君ヨリ録ヲタマワル家
中録ヲ空シクスル事有ヘカラス非常ノ事
アラシニハ其家中ニハ國主領主附隨ヒ
國主領主ハ我先ニト

幕府ノ御用ニ立候様常々心カケ
幕府ニテハ常々御旗本ニ武備ヲ勵シ給ヒ
テ國主領主ヲ頼ミニ不思石様双方持合時

ハ蜜船何ホト渡来スルトモ又ハ方々一國
持大名等異変有之トモ吏ニ恐ルハ不足
事也右ヤウ武備ノ手當調ヒタル上ハ人々
相應ノ羨ハ苦シクモ有マシキナレバ儉約
ヲ守リ一生取懸リテサヘ行届ク子候ハシ
譬ヘハ十分手當出来シ上ハ十一分ニモ十
二分ニモ手厚キヤウニ心懸ヘキ事ユヘイ
ツトテモ奢リテヨキトイフ時ハ有之間敷
且日本中ノ事ト違ヒ異國ヨリ渡来ノ
戦争ハイツ何時有之モ難計○ハ有間シケレ

○之下脱死之上字
出火ト戰爭前日
ヨリ分リタル事
計リ

内務省

皇國ノ道ヲ本トシ併法ノ異端邪道ヲ退ケ

内務省

ハ公邊ヲ始メ奉リ三親藩ハ勿論諸大名共ニ生ル、ヨリ死スルマテ我皇國ノ道ヲ本トシ併法ノ異端邪道ヲ退ケ常々異國船来リタル共午苦不違ヤウ中合置兼テ覺悟身一タルヘシ異端ノ道ヲ惡キトハ知リナカラ苟安姑息シテ近ツクル事ナカレ却テ苟安姑息トイフ事ハ見通シナキト不交断トヨリ出ル事ニテ黑白ノ見又キナキ道也黑白ノ見又キナキ時ハ譬へハ賢明有志ノ正論ヲ聞タヒハ尤ト思ヒ愚闇

即不肖ノ邪論ヲ聞テモ成程ト惑ヒ両方ノ説

ヲ取用ヒテ黒クモナク白クモナラズトイフ如ク中ヲ取テ中庸ト思ヒ誤ルモノ女カラス是ヲ色ニタトフレハ鼠色ノ慶ヲ用ルニヒトシ鼠色ハ白クハ一切ナル事ナシ黒クハ成カテニテ姑息ヲ用エル人アシキ方ニ成行ハ此理也呉々モ非道ノ卓見ヲモテ永世マテモ無用ノ奢リヲ禁シ天道武備ヲハナミヌル事人君ノ急務ナルヘシ

内務省

内務省



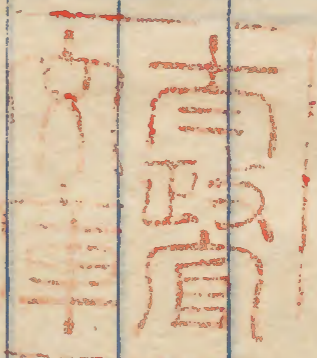
明訓一班抄卷一終

Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

内務省

内務省



明治八年五月以岡谷繁實所藏之本写之

士等出仕大野義
士等出仕杉村濤
校

課長七等出仕岡谷繁實

